

議案第2号

令和5年度 社会福祉法人久御山町社会福祉協議会 事業報告

総 括

令和5年度は、長年のコロナ禍から社会経済活動が再開する一方、物価高騰による家計への影響が長期化し、地域住民同士のつながりやサポートとのつながりの重要性を改めて感じる1年となりました。つながりの希薄化は特に高齢者や障害者、子育て世帯などに大きな影響を与えており、地域のつながり、絆を再構築するには、非常に大きな努力が必要となります。社会福祉協議会においては、地域住民とともに「地域の絆のつなぎなおし」を進め、居場所づくりなど地域福祉活動の推進に努めてまいりました。

また、コロナ禍で開催できなかった事業を再開することで、つながりのありがたさを再認識していただきました。

【法人運営】

昨年度は社会福祉協議会を多くの人に理解していただくことを目的に、社協ガイドブックの改訂版を作成し、配布を行いました。紙媒体だけではなく SNS などを広く活用することで、広報活動を進め本会の情報を取得しやすい環境づくりに取り組んできました。

社協の活動が、地域福祉、住民福祉の根幹であることを職員が理解し実践することで久御山町の福祉の推進につながり、住民と社協が顔の見える関係性が深まったと考えています。

【地域福祉活動】

今年度はコロナウイルス感染症が5類へ移行したことで「地域福祉」が非常に重要な1年となりました。地域住民同士の絆の再構築、新たなつながりづくりをおこなうことで、住民活動の立ち上げなどに取り組んできました。

その中でも、ここ数年「みまもりあいプロジェクト」や「久御山大作戦」などの企業や福祉事業所、高校生など、新たな地域資源と連携できたことは、この先、社会福祉協議会が地域を巻き込んだ事業をおこなっていく上で重要な土台を築くことができたと考えています。

【介護サービス事業】

コロナウイルス感染症が本年5月に5類移行以後も、本会の介護サービスにおいては施設内や職員間での感染が広がることはなく、業務を継続することができています。従来通りマスクの着用や消毒の励行など感染対策を緩めることなく取り組んできました。

通所介護事業、訪問介護事業共に新規利用希望の相談は一定数ありますが、介護職員や登録ホームヘルパーの不足などが課題となり、利用者の増加に至っていない状況です。特にホームヘルパーの担い手は大変不足しており、職員確保、定着においては一層踏み込んだ対応が必要です。

居宅介護支援事業は、地域包括支援センターへ派遣されていた職員の帰任により、ケアマネジャーの充実が図られたことで、地域住民により良いサービスを提供しています。

今後、社会福祉協議会では、「人員の確保」、「地域のつなぎなおし」、「非常時対応の体制確立」など多くの課題が山積していますが、役職員を始め、地域住民や関係機関としっかりと手をつないで乗り越え、「当たり前の暮らし」をつなげていくことに尽力していきます。

事業活動計画	本年度実施状況	前年度実績	成果と課題
1 社協組織の強化	(1) 社協会員の加入促進 ① 自治会等の戸別依頼による会員及び会費 会費 1, 310, 800 円 500 円以上 2639 世帯 500 円未満 1 世帯 加入率 36. 02% ② 企業・団体からの賛助会員及び会費 会員数 75 件 賛助会費額 456, 000 円	1, 377, 600 円 2, 696 世帯 1 世帯 36. 95% 59 件 298, 000 円	・自治会加入世帯数が減少に伴い、会費が減少した。 ・賛助会員の数が約 1. 3 倍となった。 ・本会の自主性を高め、地域福祉活動を進めるため、積極的な加入促進を行う。
	(2) 理事会、評議員会、正副会長会及び監事会 ① 理事会 9 回開催 ② 評議員会 2 回開催 ③ 正副会長会 8 回開催 ④ 監査 2 回開催	8 回 2 回 10 回 2 回	・理事会は定期的に開催し社協の運営を協議した。
	(3) 働きやすい職場づくりの取り組み ① 職場環境向上委員会 6 回開催 → 働きやすい職場環境について検討を行った ② ICT 化推進会議 9 回開催 → 介護ソフトの以降の検討を行う	3 回 4 回	・部署間の連携が強化された。 また、職員からの意見が出やすくなった。
2 専門委員会活動の推進強化	(1) 企画広報委員会 ① 企画広報委員会の開催 8 回開催 ② くみやま社協だよりの発行 4 回発行 (5・8・12・3 月) ③ 社協ガイドブック改訂版の啓発 説明会 3 回 → 社協のイベントで配布し、本会の事業を紹介した。 ④ SNS を活用した情報発信 LINE 登録者 281 名 → 240 回配信 ⑤ ホームページの充実 → 令和 6 年度更新向けて ⑥ 久御山町社会福祉大会の開催 112 名 (隔年開催) (4 年ぶりの開催) → 地域福祉貢献者等への表彰・感謝状贈呈 記念事業(「自分らしく生きること そして家族の絆」)	7 回 4 回 1, 500 部 230 名 36 回配信 前回 102 名 (令和元年度)	・社協だよりが全国社協広報紙コンクール 2023 で奨励賞を受賞。社協の事業等を広く住民に周知し理解を得るため、引き続き気軽に手に取り読んでいただけるよう内容に工夫する。 ・記念講演では、家族の絆による「共生」に向け、「地域住民同士のつながりづくり」の大切さを確認した。
	(2) 老人・障害委員会 ① 老人障害委員会 2 回開催 ② ひとり暮らし高齢者社会見学 開催中止 ③ ひとり暮らし老人「きらく会」料理講習会 12 名参加 ④ いきがい大学の受講者激励→ 33 人分 ⑤ シニアクラブ連合会行事への助成 → グラウンドゴルフ大会等 ⑥ ハンディーズプラザ 40 名参加 ⑦ 高齢者世帯交流会 54 名参加 ⑧ 高齢者に向けた終い支度セミナー 3 回 延 31 名参加 → 相続について、 ⑨ 独居高齢者料理教室 4 回 延 28 名参加	3 回開催 開催中止 11 名参加 助成行わず 開催中止 開催中止 3 回 延 21 名 4 回 延 20 名	・コロナ禍で中止を余儀なくされていた事業を形態を変えてではあったが再開することができた。
	(3) 母子父子児童委員会 ① 母子父子児童委員会 2 回開催 ② 一人親家庭親子交流会 開催中止 ③ 親子ニコニコ子育てサロンの実施	2 回 開催中止	・ひとり親家庭交流会は中止し、次年度以降当事者団体や関係課と検討する予定。

事業活動計画	本年度実施状況	前年度実績	成果と課題
3 ボランティア活動の推進	(1) ボランティア登録実績 ①個人登録 延 15 名 ②グループ登録 32 団体(312 名) ・既登録団体 30 団体 ・新規登録団体 2 団体 →すずかぜ H&H、素的 6 にリメイク ・休止中団体 4 団体	延 11 名 30 団体(273 名) 4 団体	・コロナウィルスが 5 類へ移行したこともありボランティア活動が再開され、2 団体が新規登録されたことにより活性化を図ることができた。
	(2) ボランティア活動 ①ボランティア依頼・調整件数 4 件 ②ボランティア給食の調理 9 回 383 食	1 件 9 回 319 食	・利用登録者が増えたことで、配食数も増加した。
	(3) ボランティアバンク運営委員会の開催 ①ボランティアバンク運営委員会の実施 3 回 ②各専門委員会の実施 ・広報部会 0 回 ・地域福祉活動部会 0 回	3 回 2 回 0 回	・ボランティアバンク運営委員会を開催することにより、活動への支援を行うことができた
	(4) ボランティア基金管理運営委員会の開催 3 回 ・ボランティア基金保有額 51,368,273 円 ・今年度の利息収入 250,027 円 ・ボランティア団体への助成 13 団体 292,000 円	3 回 51,368,273 円 250,027 円 11 団体 261,400 円	・基金管理運営委員会でボランティア活動助成の審議を行った
	(5) 買い物に不便を感じている人への支援活動 ①買い物送迎サービスの実施 ・運行回数 12 回 ・利用登録者数 28 名 ・延利用者数 112 名	12 回 22 名 116 名	・利用者からの要望も強く、サービスの向上のために運行の増便を検討している。
4 絆見守りネットワーク事業	(1) 絆見守りネットワーク設置・運用事業 ①絆ネット担当者間の連携強化		
	(2) 見守りネットワークの拡充と推進 ①見守り協力事業所 135 事業所 ・新規加盟 9 事業所 →食品：2 社、暮らしのお手伝い：1 社、車、自転車販売・整備：2 社、介護：4 社 ・協力事業所への訪問活動 23 事業所 ②絆見守りネットワーク全体研修会 未実施 ③事業所及び地域からの通報件数 6 件 ・連絡後の対応 担当の福祉・介護事業所へ連絡 2 件 訪問等による継続した見守り 2 件 家族に連絡 0 件 民生委員さん引き継ぎ 2 件 心配なし 0 件 入院・救急搬送 0 件	134 事業所 1 事業所 未実施 20 名 10 件 2 件 1 件 0 件 4 件 0 件 0 件	・コロナ禍もあり、事業者移転や縮小、廃業等で登録事業所は昨年度より 1 社増えたが、結果的には 9 社が新規加盟となった。
	(3) 事業の担い手育成支援活動 ①ふくろう隊員の継続募集 未実施 ②ふくろう隊研修会の開催 未開催	359 名 未実施 未開催	
	(4) 住民組織見守り強化活動 ①地域ひとつなぎ事業の助成受託 7 か所 →栄 1・2 丁目、東佐山団地、大橋辺、村東、佐古、東一口、下津屋団地	8 か所	・府社協の受託事業ではあるが、地域の見守りの一つの手段として活用されている

事業活動計画	本年度実施状況	前年度実績	成果と課題
4 絆見守りネットワーク事業	(5) 絆見守りネットワーク制度啓発活動 ① サロンや研修会での事業の説明 → いきいきサロンで事業の紹介を行った ② 見守りステッカー、マグネット等の啓発グッズの配布 ③ ポスター掲示、ホームページ活用等 ④ 地域見守り週間の実施 ⑤ 地域活動資料集の作成と配布 未実施 ⑥ 情報紙「やさしさの風くみやま」の発行 → 地域福祉会を通じて配布 1 回×2,000 部発行 1 回×1,970 部発行 4 回×1,960 部発行	未実施 2 回×1,950 部 発行 2 回×1,955 部 発行 1 回×1,975 部 発行	
	(6) 当事者への訪問及び支援活動 ① 地域包括支援センターとの要支援者同行訪問 3 件 ② 気になる高齢者についての民生委員との情報交換や同行訪問 2 件	5 件 4 件	
	(7) 久御山町福祉・介護事業所地域連携会議 ① 連携会議の開催 1 回開催 → ・生活支援体制整備事業についての研修 15 事業所参加 ② 参画事業所 27 事業所	1 回 25 事業所	
5 住民参加の地域福祉推進事業	(1) 地域福祉推進委員会の運営 ① 地域福祉推進委員会 0 回 → 改選時期に合わせて、推進委員会の設置目的から見直しを行い、委員会自体を改変することとした。 ② 地域福祉会 35 自治会等設置、福祉協力員 180 名 ③ 地域福祉活動研修会 1 回 72 名 → 「実践から学ぼう！みんなの居場所づくり」をテーマとし講演・パネルディスカッションを実施。 ④ ZOOM 使い方講習会 0 回 ZOOM 勉強会 7 回 ・開催地域→栄 3・4 丁目、東一口、松陽台、下津屋団地、栄 1・2 丁目、双栗、島田	1 回 35 自治会、190 名 1 回 47 名 未開催	・地域福祉活動研修会は、継続して居場所づくりをテーマに開催し、地域住民への関心を引くことができた。 ・ポケット Wi-Fi を活用し、高齢者サロン等で勉強会を開催。 ・家に Wi-Fi 環境が無い等問題あり
	(2) 住民参加による在宅福祉活動事業 ① 在宅介護支援 ・車椅子貸出 47 件 ② ふれあい福祉まつり 2 日間 230 名参加 → 昨年度の反省より、物販の出展が増えたうえ、動画上映を行い、新たに音楽ステージを開催した。 ・ポスター展示 26 団体 ・動画上映 9 団体 ・物販（食品以外） 6 団体	53 件 2 日間 270 名 30 団体 25 団体 6 団体	・令和 4 年度に数年ぶりに開催しましたが、今年度はボランティアグループの演奏の機会を設けたことで来場者が増えた。福祉を広く知っていただくことで一定の評価はできる。
	(3) 小地域ネットワーク活動の活性化による地域生活支援事業 ① 地域福祉会活動 ・ふれあいサロン活動 20 か所 延 21 回 ・訪問活動 5 か所 5 回	15 か所 延 28 回 5 か所 5 回	・コロナが 5 類に移行したことで、地域で食事の提供を再開したため増加。

事業活動計画	本年度実施状況	前年度実績	成果と課題
5住民参加の 地域福祉 推進事業	(4)ミニデイサービス事業(いきいきサロン)の推進 ①ミニデイサービス(いきいきサロン)の実施 - 参加者数 延 1,613 名 - その他、スタッフ等数 延 1,167 名 - 内訳：福祉協力員 延 588 名 - 看護師 延 153 名 - 保健師 27 名 - ボランティア 延 399 名 - 活動回数 延 153 回 1 日当り平均利用人数 延 10.5 名 - 開所活動地域 21 か所 - 新規開催地域 0 地域	延 1350 名 延 1069 名 延 595 名 延 134 名 11 名 延 329 名 延 134 回 約 10.1 名 19 か所 0 地域	・鈴間、佐山がいきいきサロンを再開。 ・野外活動も 18 地域で開催。 ・開催回数、参加者が増加して、地域が活発になってきた。 ・R 6 年 4 月に荒見地域福祉会がいきいきサロン初開催予定。
	(5)ZOOMでおしゃべりしませんか？ - 月 1 回開催 10 回 73 名 - 内容：4 月(最近の出来事)、5 月(意見交換)、6 月(通信機器関係)、7 月(夏の予定)、8 月(体操)、9 月(最近のニュース)、10 月(最近の出来事)、11 月(今後の相談)12 月(今後の相談)、1 月(最終回・スズメ会)→2 月以降は地域住民が主体となって「スズメ会」を開催されている。	12 回 86 名	・いきいきサロン内で ZOOM の勉強会を開催したが、新規の参加者が増えなかった。 ・1 月で ZOOM の利用料更新だったが、更新せず「おしゃべり会」は終了。
	(6)誰でもサロン活動支援事業の実施 - なごみサロン 10 回 106 名 - おしゃべり誰でもサロン 22 回 130 名 - すみれサロン 11 回 103 名 - 認知症予防ゲーム 13 回 244 名 ・栄楽サロン 24 回 183 名 ・桜輪会 14 回 84 名 ・いどばたクラブ 44 回 243 名 ・カナリア 23 回 323 名 ・ワイワイさろん 23 回 206 名 ・おやこサロン mimosa(前期) 4 回 10 名 ・寺ヨガ 21 回 187 名 ・ひまわり(新規) 15 回 117 名 ・絵本と紙芝居(新規) 6 回 98 名 ・みてみてサロン(新規) 1 回 15 名 ・いちごサロン 未実施	10 か所 174 回 10 回 125 名 21 回 141 名 未開催 14 回 253 名 24 回 192 名 15 回 93 名 34 回 158 名 14 回 189 名 22 回 189 名 11 回 20 名 9 回 85 名 未開催	・新規開設が 3 件、再開が 1 件とサロン活動が活発になった。 ・いどばたクラブ(村東)は毎週土曜日午前中から開催。自由に出入りして楽しまれている。 ・各サロン、回数を増やしたり色々企画して楽しまれているようだ。 ・地域の活性化につながればいいと思う。
	(7)認知症等、当事者理解の推進事業 ①認知症サポーター養成講座の実施 →・社協実施分 5 回 155 名 ・岡本記念病院実施分 3 回 60 名 ②認知症研修 →・VR認知症体験研修会 未実施 ・チームオレンジ研修会 2 回 13 名	6 回 延 156 名 5 回 121 名 1 回 35 名 1 回 16 名 1 回 17 名	・講座回数、受講者数が社会福祉協議会主催、岡本記念病院主催ともに増加した。

事業活動計画	本年度実施状況	前年度実績	成果と課題
5 住民参加の 地域福祉 推進事業	(8) 地域の居場所づくり事業の推進 ① 空き家を活用した居場所づくり 1 か所 ② 福祉関係団体へのほっとハウス貸出事業 ・ のびりあ 100 回 765 名 (うち子ども 398 名) ・ おしゃべりカフェこころ (傾聴) 12 回 62 名 ・ 久御山オッサンズカフェ 12 回 93 名 ・ おやこサロン mimosa 10 回 62 名 ・ ゆる体操 10 回 74 名 ・ ひまわり (1 月から) 6 回 51 名 ・ チェさんカフェ (6 月から) 10 回 67 名 (うち当事者 21 名) ③ 認知症カフェ事業 ・ おこしやすこもれびプラザ → ハートフルが主体的に実施 - ゆうホール (第 2 木曜日) 10 回 延 233 名 - 荒見苑 (第 2 火曜日) 3 回 延 11 名 ・ ほほえみプラザ (当事者型認知症カフェ) → ゆうホールで開催 12 回 延 199 名 (当事者 115 名、家族者 84 名) ④ ほっとハウスチェさん利用団体懇談会 → 各団体の活動紹介および意見交換 1 回 5 団体	1 か所 102 回 250 名 12 回 79 名 12 回 79 名 12 回 46 名 5 回 33 名 2 回 10 名 3 回 18 名 10 回 延 226 名 4 回 延 27 名 5 回 延 41 名 12 回 延 152 名 3 回	・ 新規利用も増え、利用者が増加傾向にある。 ・ SC が常駐することにより、相談等の来所者も増加している。 ・ 認知症当事者と家族・支援者による「できること」「やりたいこと」に取り組む居場所事業が始まり、今後は組織化しさらに活動を充実させていく。 ・ ほほえみプラザの利用者が徐々に増加していることから交流する必要性を強く感じる。今後の活動内容にはさらに包括支援センターとの連携の強化が必要。
	(9) 久御山大作戦～笑顔の架け橋プロジェクト～の実施 ① 実施に向けた会議の実施 2 回 ② 実施内容 延 120 名参加 → パネル展示、オリジナル傘制作、運動指導、販売 ② 参画団体と出展内容 14 団体 → ・ 町内民間福祉法人、久御山高校生徒会	3 回 延 125 名参加 9 団体	・ 久御山中学校、久御山高校の吹奏楽部のコンサートを同時開催。
6 生活支援体制整備事業	(1) 生活支援コーディネーターの設置と資質向上 1 名 ① 当事者や支援者への調査活動 → ケア会議への参加、ほっとハウス「チェさん」のサテライト勤務で随時聞き取り等実施 ② 各種研修等への参加 → ・ 研修：京都府生活支援体制整備事業推進研修会 全社協 SC 研究協議会 ・ 視察：大阪市天王寺区「昭和男の体操教室」 - 大阪府「本音で語ろう！情報交換会」 ③ 他地域の SC との情報共有と連携 → 京都府内 SC 情報交換会 (実行委員) 3 回 京都府・さわやか福祉財団と連携し、大山崎社協・南丹市社協・宇治市社協 SC と共に実行委員会形式で実施	1 名	・ SC がほっとハウスチェさんに常駐することにより地域の人が気軽に立ち寄り、相談できる場として認知されつつある。 ・ 京都府内 SC が顔の見える関係を作るための情報交換会を開始。SC の孤立を防ぎ、気軽に相談ができる関係をさらに広げていく。
	(2) 地域住民へ向けた研修会等の開催 ① ささえあいのまちづくりフォーラム 「居場所ってなに？」 講師：松岡武司氏 (倉敷市社会福祉協議会) 講演：久御山町内の事例紹介・グループワーク 地域住民・福祉事業所・企業等が参加	1 回 41 名	

事業活動計画	本年度実施状況	前年度実績	成果と課題
6 生活支援体制整備事業	(3) 協議体の開催 →事業を推進していくにあたっての意見交換 11 回開催	12 回	
	(4) 地域福祉活動リーダー層育成事業 ①まちのお助け隊養成講座の実施 →久御山町の現状、他地域の事例、認知症、高齢者とのコミュニケーション、高齢者のこころとからだの変化などについて学ぶ 8 日 7 名 ②お助け隊フォローアップ研修の実施 →講座の修了者を対象とし、情報交換などを目的に集まる機会として定期的に実施 11 回 延 50 名 12 回 延 90 名	8 日 18 名 12 回 延 90 名	・3 年間実施していた養成講座および月に一度の修了者の集まりは今年度で一旦終了。今後は随時、修了者のフォローアップ等支援、勉強会等へと切り替えていく
	(5) 異業種連携の取り組み ①企業との連携 →・みまもりあいアプリを活用した声かけ訓練を企業と連携して実施 ・定年後の男性の居場所「久御山オッサンズカフェ」と企業との連携 ・高齢者安全運転講座をダイハツと協働で開催 ②久御山高校生との連携 →「みまもりあいプロジェクト」への参画 ・声掛け訓練への参加 ・「みまもりあいプロジェクト」パンフレットを活用した啓発活動 ・お助け隊メンバーとの連携 (しめ縄作り体験および門松作り) (6) 住民主体 ・まちのお助け隊養成講座修了者を中心にした新たな活動 →みんなの畑くらぶ、林のオアシス、笑茶話茶会(下津屋団地)、チエさんカフェ ・ほっとハウスチエさんを活用したサテライト事業 (7) 啓発 ・これまでの活動をまとめた「ささえあいのまちづくり通信」の発行	1 回 40 名 未実施 未実施 2 回 127 名 1 回 12 名 1 回 19 名	
7 福祉教育・ボランティア学習事業	(1) 福祉推進校の指定 ①福祉に関する学びを实践する推進校として町内全ての学校を指定し、助成金を交付した。 →町内学校に福祉体験学習等の需給調整を行った		
8 相談窓口の設置事業	(1) 心配ごと相談所の開設 ・開設日数及び利用者 ・開設日以外の利用者 ※貸付の相談は含まない。 (2) 弁護士無料法律相談所の開設 ・開設日数 ・利用者	24 日 0 名 36 名 12 日 63 名	24 日 0 名 16 名 12 日 48 名

事業活動計画	本年度実施状況	前年度実績	成果と課題
8 相談窓口の設置事業	(3) 司法書士無料相談所の開設 ・開設日数 6 日 ・利用者 15 名	6 日 7 名	
9 生活困難等支援事業	(1) 社協貸付基金 ① 取り扱い件数 ・相談件数 0 件 ・貸付件数(限度額 50,000 円) 0 件 ② 不納欠損処理数 0 件	3 件 0 件 18 件	・社協貸付基金は繋ぎ資金の要素が強い ため相談、貸付け等 はなかった。
	(2) 生活福祉資金貸付制度(生活自立のための貸付) ① 取り扱い件数 ・相談件数 46 件 内、貸付相談 29 件 償還相談 17 件 ・貸付件数 7 件 内、貸付辞退・取下げ 2 件	47 件 32 件 15 件 7 件 0 件	・生活福祉資金は教育支援資金が 7 件中 5 件申請があった。2 件の取り下げは公立 高校合格のための取 り下げとなった。
	(3) 総合支援資金貸付制度(失業者に対する生活費の貸付) ① 取り扱い件数 ・相談件数 0 件 ・貸付件数 0 件 ② 月次面談回数 0 回	0 件 0 件 0 回	
	(4) 不動産担保型生活資金貸付制度 ① 取り扱い件数 ・相談件数 0 件 ・貸付件数 0 件	0 件 0 件	
	(6) 生活福祉資金調査委員会 1 回開催 →・社協貸付基金長期滞納債権の不能欠損処理 ・生活福祉資金の貸付及び償還状況	1 回	
	(7) 物価高騰対策緊急生活支援事業 →社協が把握している生活困窮者に案内を送付し、希 望者へ生活用具と食料品をまとめた物資を配布 ・物資配布数 150 セット	150 セット	・物資配布後も生活 困窮している方が多 いことから、寄付の お米を配布した。
	(8) 特例貸付フォローアップ事業 →コロナ特例貸付利用者へ、相談を通して生活 支援等を行い関係機関へ繋ぎ自立を促す。		・今年度からの事業 で、次年度から計画 を立てて取り組む。
10 地域福祉権 利擁護事業	(1) 福祉サービス利用援助事業 ① 事業従事者の確保 ・専門員 1 名 ・生活支援員 登録者 8 名 雇用数 7 名 ② 利用者との契約状況 ・利用者数 21 名 内、新規契約者 4 名 解約者 3 名 ③ 事業の問い合わせ件数 12 件 ④ 相談、連絡、調整件数 777 件 ・利用者、家族 301 件 ・生活支援員 194 件 ・その他関係者 276 件 ⑤ カンファレンスへの参加件数 6 件 ⑥ 相談窓口の設置 13 件 →判断能力の低下による困りごとへの支援についての 相談窓口を随時設置 ⑦ 事業の啓発活動 →地域包括支援センター、高齢者サロン等で事業の紹 介を実施	1 名 10 名 7 名 20 名 4 名 2 名 8 件 893 件 376 件 129 件 379 件 9 件 13 件	・昨年よりは利用者 数は増えているが、 相談件数は減少して いる。

事業活動計画	本年度実施状況	前年度実績	成果と課題
10 地域福祉権利擁護事業	(1) 山城北中部広域社協合同講座 事業紹介映像作成に向けた企画会議と専門員の市町村を超えた連携と交流の実施 9 回	9 回	
11 子育て支援事業	(1) 親子ニコニコ子育てサロン 11 回延 203 名 →子育てサークルさくらんぼとの共催事業 4 月 イチゴ狩り 12 組 25 名 5 月 シャボン玉・宝探し 9 組 18 名 6 月 京都市立動物園 9 組 18 名 7 月 ミニ夏まつり(8 月) 13 組 38 名 9 月 ブドウ狩り 10 組 24 名 10 月 クッキング 7 組 16 名 11 月 紙飛行機・工作 2 組 4 名 12 月 クリスマス会 12 組 26 名 1 月 すごく作り・新年会 5 組 12 名 2 月 クッキング 8 組 11 名 3 月 お楽しみ会 8 組 11 名	11 回 延 182 名 5 組 12 名 5 組 10 名 5 組 12 名 12 組 39 名 10 組 23 名 3 組 6 名 6 組 12 名 8 組 19 名 6 組 14 名 8 組 17 名 8 組 18 名	・3 月に親子サロン卒業で参加者が減っても、4 月にいちご狩りで新規の参加者さんが増えている。 ・LINE を活用しての広報や申込受付は好評。 ・地域を越えて、お母さま同士仲良くなって楽しまれている。
12 住民参加型在宅福祉サービス事業	(1) ささえ愛サービスの実施 ①実績 ・移送活動 延 48 世帯 297 回 →通院、リハビリ、福祉施設への送迎 ・家事援助、介助活動 延 9 世帯 37 時間 →除草、清掃、洗濯等 ②現在の登録者 ・利用会員登録者 44 名 ・ハート会員登録者 13 名	延 59 世帯 327 回 延 2 世帯 46 時間 37 名 11 名	利用会員、ハート会員ともに増加したが、利用延数は減少している。ハート会員の増加で家事援助などのニーズに対応できるようになった。
13 共同募金運動の推進	(1) 共同募金委員会の設置 ①運営委員会の開催 3 回 →コロナ禍での企業訪問の是非、公募型助成事業など ②審査委員会の開催 3 回 →公募型事業の審査、歳末たすけあい運動の配分など	3 回 3 回	
	(2) 共同募金 ①10 月から 3 月の達成額 2,036,704 円 内、街頭募金 4,190 円 企業大口募金 1,012,409 円 自治会募金 976,050 円 その他募金 44,055 円 ②公募型助成事業の実施 2 件 190,000 円 →久御山町共同募金会から活動者へ直接助成を行う公募型助成事業を実施	2,133,349 円 12,206 円 1,032,929 円 1,072,191 円 16,023 円 1 件 100,000 円	・企業大口募金、自治会募金ともに募金額が減少した。新規の企業訪問先の開拓が必要であると考え
	(3) 歳末たすけあい募金 ①12 月 1 日～31 日募金額 978,200 円 ②配分額 821,470 円 内訳・単身高齢者、高齢者世帯へのおせち料理 109 食 ・生活困難世帯への生活支援物資配布 6 世帯 ・福祉施設事業助成 8 事業所 ・地域福祉推進事業 22 団体	1,047,100 円 1,363,200 円 161 食 10 世帯 8 事業所 20 団体	・自治会募金額の減少が顕著である。おせち料理の自己負担額を増額したために、おせちの配食数が減少した。

事業活動計画	本年度実施状況	前年度実績	成果と課題
13 共同募金運動の推進	③事務費 30,000 円 ④次年度への繰越金 156,730 円 ⑤審査委員会の開催 2 回	50,000 円 0 円 2 回	
14 災害対策事業	(1)災害ボランティアセンターの設置・運営事業 ①災害ボランティアセンター運営委員会の開催 3 回 →役員改選、総合防災訓練についてを検討 ②災害ボランティア事前登録制度の運用 登録 66 名 ③災害ボランティアセンター運営訓練の実施 1 回 200 名 →久御山町総合防災訓練に出展 ④中高生との連携に向けた取り組み →未実施	4 回 52 名 1 回 30 名 16 名 14 名	・10 月に行われた町総合防災訓練において、災害ボランティア事前登録者が 16 名増加。1 月に発災した能登半島地震を受け災害ボランティアに対する関心は高い。
15 研修・会議	(1)役員・職員の資質向上に向けた研修や会議の実施 ①職員全体研修 4 回 84 名参加 →全職員及び町内事業所職員を対象とした必須研修等学びの機会を定期的に実施した。 ②管理職会議 11 回開催 ③外部研修の受講推進（認証関係外） ④町主催研修への受講 1 回 14 名 ⑤役員研修 →「社会福祉協議会とは（DVD 研修）」 1 回	5 回 78 名参加 12 回開催 4 回 9 名	
	(2)福祉サービス事業第三者委員会の実施 1 回開催 →各課より苦情等の状況報告を行い、第三者委員に現状の把握をしていただいた。	1 回開催	・
	(3)福祉人材育成認証事業所の認証 →人材育成に積極的に取り組む福祉事業所として京都府の認証を受けている。 ①認証の更新 →次回の認証更新時期 ②人材育成研修への参加（外部団体研修） 8 回 9 名	2024 年 3 月末 7 回 13 名	
16 地域福祉センターの管理運営	(1)地域福祉センターの管理運営（利用の状況） →延利用者 ・相談室 172 件延 582 名 ・介護講習室 116 件延 1189 名 ・視聴覚室 203 件延 1689 名 ・社協関係外の利用 106 件延 654 名	216 件 延 593 名 195 件 延 1858 名 318 件延 2,457 名 122 件 741 名	・件数は減ったが 1 件利用人数が増えた。 ・R6 年度から部屋利用報告は使用後 Google フォームで報告。
17 その他の地域福祉事業	(1)レクリエーション機材等の貸し出し事業 ①貸し出しの実績 ・大型レク機材 69 件 ・小型レク機材 29 件 ・調理機材 6 件 ・その他 11 件 ②貸出先 →てくのハウス(株)、ミサワ林自治会、下津屋サンハイツ自治会、松陽台自治会、みつば子供会、子育て支援課、療育、楽生苑、栄 1・2 丁目自治会、佐山自治会、松栄会、生涯学習応援課、ひしの里、林自治会、リエゾン久御山、田井まなび塾、シルバー人材センター、銭太鼓さざんか、オアシス、歩こう会、ほほえみプラザ、マツダメディカルマーケット、鈴間地域福祉会、栄 3・4 丁目地域福祉会、きらく会、下津屋団地、宇治オールスターズ、安養寺、若草クラブ等	4 件 6 件 1 件 0 件	・コロナが 5 類に移行したことで、施設、企業、自治会、老人会、子供会等が事業を再開し、機材の貸出も増加した。

事業活動計画	本年度実施状況						前年度実績	成果と課題		
19 デイサービス事業の推進	(1)通所介護（介護保険事業） ①基本事業 ・利用契約人数 37.3 名 ・利用延人数 4606 名 ・開所日数 305 日 ・1 日当たり平均利用人数 15.1 名						45.6 名 4,859 名 307 日 15.8 名	・常勤職員の退職等により、利用定員に対する人員基準の維持が困難となったため 11 月から利用定員を 25 名/日→20 名/日とした。その結果、前年を下回った。		
	(2)第1号通所事業（介護予防通所介護相当） ①基本事業 ・利用契約人数 10.8 名 ・利用延人数 727 名 ・開所日数 305 日 ・1 日当たり平均利用人数 2.4 名						17.9 名 1,278 名 307 日 4.2 名			
	(3)身体障害者デイサービス事業 ①基本事業 ・利用登録人数 0 名 ・利用延人数 0 名 ②各種教室の開催 ・書道教室 12 回 100 名 ・卓球バレー教室 12 回 172 名 ・料理教室 2 回 8 名						0 名 0 名 12 回 103 名 未開催 未開催		・身障ディは利用希望者がなかった。 ・身障教室はコロナ感染対策を施した上で、ほぼ予定通り開催した。	
	(4)その他（イベント・研修会・検討会等） ①デイまつりの開催 2 日間 ②ケース検討 事例 36 名 ③接遇チェック（職員全員） 0 回 ④施設外研修への参加 1 名 ⑤施設内研修 4 回 ⑥防災訓練 1 回						4 日間 事例 52 名 0 回 1 名 6 回 2 回			・ディまつりは昨年同様に利用者のみで開催した。 ・防災訓練は行政と合同で実施した。
20 ホームヘルプサービス事業の推進	(1)居宅介護等事業(介護保険・介護予防事業) ①派遣状況 ・年間利用世帯 71 世帯 ・訪問回数 延 6561 回 ・活動時間 延 5803 時間						93 世帯 延 6,383 回 延 5,709 時間	・利用人数の制限があり、新規ケースを止めていた期間があった		
	内訳	常勤		登録		合計				
		回数	時間	回数	時間	回数			時間	
	家事	3 7 5	2 9 8	4896	4462	5271			4760	
	介護	2 0 6	1 7 0	1084	8 7 3	1290	1043			
	(2)障害者自立支援居宅介護・外出支援 ①派遣状況 ・年間利用世帯 15 世帯 ・訪問回数 延 1127 回 ・活動時間 延 2536 時間						14 世帯 延 3,193 回 延 2,877 時間	・訪問回数が多い利用者の入退院があり回数、時間数ともに減少した		
	内訳	常勤		登録		合計				
		回数	時間	回数	時間	回数			時間	
	家事	3 8	2 3	9 0 1	1136	9 3 9			1159	
	介護	7 7	8 2	1811	1295	1388	1377			
	(3)ゆったりケアサービスの実施 →病院への通院介助など 67 回 11 名						65 回 31 名			
(4)その他（研修会・検討会等） ①常勤ホームヘルパー 3 名 ・ケアマネジャー主催ケア会議への参加 ・対象者ごとのケース検討会の実施 ・町ケア会議への参加						2 名				

事業活動計画	本年度実施状況	前年度実績	成果と課題
20 ホームヘルプ サービス事業 の推進	・京都府ホームヘルパー連絡会への参加 ・実務に関する研修の実施 ②登録ホームヘルパー 14 名 ・登録ホームヘルパー定例研修 11 回 ・対象者ごとのケース検討会の実施 ・実務に関する研修の実施	1 名 9 回	
21 居宅介護支援事業所の 推進	(1)居宅介護支援事業の推進 ①ケアマネジメント業務 ・給付管理件数合計 延 1,769 件 内訳 ・事業対象 延 2 件 ・要支援 1 延 41 件 ・要支援 2 延 148 件 ・要介護 1 延 403 件 ・要介護 2 延 565 件 ・要介護 3 延 280 件 ・要介護 4 延 250 件 ・要介護 5 延 80 件	延 1,748 件 0 件 延 26 件 延 154 件 延 389 件 延 608 件 延 308 件 延 205 件 延 58 件	・合計延人数は前年度と比較しても、大きく増減はしていないが、介護度が高い要介護 4.5 の延人数が前年度に比べ増加している。そのためケアマネジメントに時間を要することが増え、職員の負担が増大している。
	(2)その他 ①町内ケアマネジャー研修への参加 3 回参加 ②事業所内ケアマネ会議実施 51 回 ③居宅介護支援専門員実務研修実習の受け入れ 1 名	2 回 48 回 0 名	・外部研修はリモートが主流だが、コロナ禍前と同様に研修も開催されるようになり、参加回数の増加に繋がっている。また、実習生も今年度は、1 人受け入れを行った。